

公立大学法人金沢美術工芸大学
平成27年度業務実績報告書
論点整理表

金沢市公立大学法人評価委員会

□全体的実施状況

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標(教育に関する目標)

- ・今年度は北陸新幹線開業を考慮し、長野市および例年受験者が比較的多い札幌市を加えた8カ所で芸術系進学相談会に参加した(延べ数にして教職員35名、相談者528名)。また、予備校、画塾と連携した進学相談会を5件行った。
- ・「ユネスコ創造都市ネットワーク会議金沢2015」(主催:ユネスコ、金沢市、金沢創造都市推進委員会)にあわせて、5月21日(木)から5月31日(日)の10日間、金沢21世紀美術館の市民ギャラリーAで、展覧会「平成の百工比照 一技と素材の一大標本、金沢の工芸振興の系譜」(主催:「平成の百工比照」展開催委員会、共催:金沢市、金沢美術工芸大学)を開催した。多くの学生が展覧会を鑑賞し、ものづくりの精神を学ぶとともに、会期中に本学教員による講演会とギャラリートークを開催した。
- ・企業や公共団体等からの依頼について、社会連携運営会議において内容と教育的な効果を確認し、産学連携事業を21件、地域連携事業を19件実施した。スマートデバイスの新しいインターフェイスの開発、デジタルマガジンデザインの研究、ホスピタル・ギャラリーの他、北陸新幹線開業PRポスターが第63回日本観光ポスターコンクールで国土交通大臣賞を受賞するなど社会から高い評価を受けた。
- ・第2期中期計画に向けて大学院運営委員会に「大学院改革ワーキンググループ」を設け、大学院改革の基本構想を議論し、結果を学長に答申した。
- ・3年計画の3年目にあたる今年度は図書館棟、工芸棟および体育館棟の18カ所に無線LANのアクセスポイント(中継局)を配備し、すべての整備を完了した。
- ・教育環境充実のため、旧式で不衛生なトイレ環境の改善、グラウンド及び体育館のベンチ更新、体育館の暗幕カーテン更新等を実施した。
- ・学生と教職員のハラスメントの防止に関して、学生便覧の「金沢美術工芸大学キャンパスハラスメントガイドライン」を一部見直し、最後のページにキャンパスハラスメント処理の流れを図示して全体を理解しやすいよう配慮した。また、年度初めの学生ガイダンスにおいて全学生に周知した。新任教職員に対しては、初任者研修会を開催し、「学生との接し方」について、担当理事から研修を行った。さらに、教職員研修として、Office Oneの中川真由美先生を講師に招き、「ハラスメントの防止」を演題として大学におけるハラスメント防止に対する意識向上のための研修を実施した。
- ・総務省の制度を活用し、金沢市と学生の県内定着率向上等を目的とする連携協定を締結した。この取り組みを具体化するため、学生が早い段階から県内の優良企業について理解を深め、意見交換を行う場として地元企業との就職情報交換会を開催した。また、情報交換会で関心をもった学生が企業に関する一層の理解を深める場として1DAYインターンシップを、また県内の有力な伝統工芸工房等の業務に理解を深め、地元伝統産業の後継者としての定着をめざして短期工房派遣実習を実施した。

〔質問・意見等〕

- ・「大学の教育研究等の質の向上に関する目標(教育に関する目標)」の記述は全体的印象として教育課程の内容・方法に関する記述が不足しているように見える。

□ 全体的実施状況

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

- ・平成26年度の認証評価において指摘を受けた、学部における履修単位登録できる単位数の上限(49単位)と課程博士の取扱いの見直しについて、改善を実施した。
- ・教員研究費について、美術工芸研究所の法人採用職員及び事務職員の複数体制で領収書等の精査を行い、さらに教育研究審議会委員が年度末にその確認を行うことで、適正かつ公正な研究費の執行を監督した。

〔質問・意見等〕

・「業務運営の改善及び効率化に関する目標」中、履修単位登録上限と課程博士の取扱いの見直しに関する記述は、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標(教育に関する目標)」に移動した方が収まりが良いように感じる。」



【追記対応】

「大学の教育研究等の質の向上に関する目標(教育に関する目標)」に下記の3項目を追記する。


- ・留学生の受け入れのための日本語教育の充実を検討し、27年度から大学院の共通選択科目に「言語表現演習(アカデミックジャパニーズ)」を開講した。(3)
- ・26年度まで1科目当たり最大で受講生80名を超えることのあった外国語科目「英語」について、教育効果の向上のため少人数化を図り、30名以内の人数に抑えるためのカリキュラムを27年度から実施した。(9)
- ・開講できていなかった造形表現工房科目のうち、新たに自由科目「造形表現工房I(メディア/メディアアート表現)」を27年度より開講した。(16)

履修単位登録上限と課程博士の取扱いの見直しに関する記述は、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標(教育に関する目標)」に移動する。また、項目41に下記を追記する。

○平成26年度の認証評価において指摘を受けた、学部における履修単位登録できる単位数の上限(49単位)と課程博士の取扱いの見直しについて、改善を実施した。(93, 115において再掲)

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ア 芸術に対する高い資 質を持つ学生を募集 し確保するため、各 科、各専攻ごとに、 それぞれが求める学 生像や能力、適性等 について入学者受入 方針を定め、これに 基づいた学生の選抜 を行う。	(イ) 入学者受入方針に応じた学 生の受入れを行うため、現行 の入学者選抜方法について再 検討し、その結果を実践す る。	(7) 22年度に策定した入学者受 入方針（アドミッション・ポリ シー）に基づき実施した26年度 一般選抜試験が、その受入方針 の実現にふさわしい選抜方法で あったか検証を行い、その結果 を入学試験に活かす。	○入試委員会において、26年度入学試 験を検証し、一般選抜試験及び特別選 抜試験ともに、アドミッションポリ シーに基づいた選抜内容・方法である ことを確認した。確認に当たっては、 専攻別の入学試験実績状況に関する記 録を利用し、各専攻でアンケートによ る検証を行った。また、今年度から一 般選抜試験に加えて、推薦入試におい ても、アンケートによる検証を実施し た。 	Ⅲ		資料 1 1
<p>【追記対応】 ○入試委員会において、26年度入学試験を検証し、一般選抜試験及び特別選抜試験ともに、アドミッションポリシーに基づいた選抜内容・方法であることを確認した。確認に当たっては、専攻別の入学試験実績状況に関する記録を利用し、各専攻でアンケートによる検証を行った。また、今年度から一般選抜試験に加えて、推薦入試においても、アンケートによる検証を実施し、その結果を入学試験に活かした。 具体的には、これまで受験生が口頭説明していた制作意図を記入形式にすることで、教員は理解しやすくなり、受験生は作品を客体化して見ることが可能となった。（視覚デザイン専攻）</p>						

〔質問・意見等〕

・年度計画に「…その結果を入学試験に活かす。」とあるが具体的にどのような形で活かされたのか、記述が必要ではないか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。	(イ) 専攻にとらわれず、多様な芸術分野を学ぶことができるようにするため、学生が主体的に選択できる基礎的な共通科目を充実するほか、他大学等との単位互換の活用方法を検討し、有効かつ実現可能と認められるものについて、導入を進める。【24年度改編など】	(ウ) 開講できていない造形表現工房科目の開講及び新科目の開講など工房教育の充実を図る。	○開講できていなかった造形表現工房科目のうち新たに自由科目「造形表現工房Ⅰ（メディア/メディアアート表現）」を開講するため、26年度の教務委員会においてシラバスに表記する授業内容を検討・確認し、27年度より開講した。 	Ⅲ		
<p>【追記対応】</p> <p>○開講できていなかった造形表現工房科目のうち新たに自由科目「造形表現工房Ⅰ（メディア/メディアアート表現）」を開講するため、26年度の教務委員会においてシラバスに表記する授業内容を検討・確認し、27年度より開講した。</p> <p>○集中履修期間の基礎科目の充実を図るため、27年度より「デザインⅡ（ファッション）」を新たに開講した。</p>						


16

〔質問・意見等〕

・年度計画に「開講できていない造形表現工房科目の開講及び新科目の開講…」とあるが新科目の開講の点はどうなったのか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 大学院教育にあっ ては、芸術の多様な 領域で活躍できる高 度専門職業人を育成 するため、教育の実 施に関する基本方針 を定め、自由で多様 な表現を認め育てる 高度な教育を効果的 に実施する。	(ウ) 表現の多様化、自由化や高 度化など、学生の多様な学習 需要に対応するため、学生が 主体的に選択できる共通科目 を充実する。【24年度改編な ど】	(カ) 今後の大学院教育のあり方 や教育内容を検討するための ワーキンググループを学内に新 設し、今後の大学院教育につい て検討する。	○第2期中期計画に向けて大学院運営委 員会に「大学院改革ワーキンググルー プ」を設け、大学院改革の基本構想を 議論し結果を学長に答申した。 	Ⅲ		資料14 24
<p>【自己評価修正】 大学院改革の基本構想は、新キャンパス構想にもその考え方が反映 されたことから、自己評価を「Ⅳ」に修正する。</p>						

〔質問・意見等〕

・大学院改革の基本構想を取りまとめ、学長へ答申まで実施したが自己評価は「Ⅲ」でよいか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。	(イ) 博士後期課程の学位審査の客観性と公開性を向上させるため、学位授与基準を厳格に適用する仕組みを構築するとともに、博士学位取得者の社会的信頼性の向上に努める。 【22年度構築】	(エ) 22年度に策定した学位授与基準に基づき、公開による作品審査と口述試験を実施して、学位取得者の社会的信頼性の向上に努める。	○博士後期課程の学位審査について、策定された学位授与基準に基づき、審査会を行い、大学院研究科委員会の審議を経て、学位を授与するとともに、審査結果を学外に公表した。 	III		資料16 28
		【修正対応】 ○博士後期課程の学位審査について、策定された学位授与基準に基づき、公開による作品審査と口述試験を行い、大学院研究科委員会の審議を経て、学位を授与するとともに審査結果を学外に公表し、学位取得者の社会的信頼性の向上に努めた。				

〔質問・意見等〕

・年度計画「…公開による作品審査と口述試験を実施して…」と業務実績「…学位授与基準に基づき、審査会を行い、」の記述は対応していないのではないか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。	(ウ) 卒業生やその就職先からの意見聴取などを通して、教育成果の検証が可能な仕組みを構築する。	(オ) 卒業生からの授業アンケートを実施し、成果の検証を行う。	○教育成果の検証のため昨年度に引き続き、卒業生を対象とするアンケート（4年目）を実施し、28年度にその結果を大学ホームページで公開することとした。 	III		
<p>【追記対応】 ○全学的に卒業生・修了生の意見を取り入れる仕組みを構築するため、卒業・修了の確定した全学生に対して、大学教育全般についてのアンケートを引き続き実施し、結果をホームページで公開した。また、24年度から蓄積したアンケート結果を自己点検・評価実施運営会議及び各科・専攻、一般教育等の教育研究組織において確認、検討するとともに、教育成果の検証を行った。その結果、ネットワーク環境の整備が教育成果の向上に寄与しており、学生からの要望も多いことから、継続的なネットワーク環境の整備を実施した。</p>						


29

〔質問・意見等〕

・「年度計画」に記載の「成果の検証」はどう行われたのか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 教育活動を活性化し、学生の自主性や創造性を引き出すため、学生に対する学習指導体制を強化するとともに、教育研究に必要な施設、設備等の充実・整備を行う。	(イ) 学生の学習効果を高めるため、学内の制作機材や情報メディア機器等を充実・整備する。	(イ) 情報メディアを活用した授業や就職支援のため、専攻等の演習室で利用可能な学内ネットワークの無線LAN化を更に進める。	○3年計画の3年目にあたる本年度は図書館棟、工芸棟および体育館棟の18カ所に無線LANのアクセスポイント（中継局）を配備し、 <u>すべての整備を完了した。</u> 	III		
<p>【修正対応】 ○3年計画の3年目にあたる本年度は図書館棟、工芸棟および体育館棟の18カ所に無線LANのアクセスポイント（中継局）を配備し、<u>計画上のすべての整備を完了した。</u></p>						


34

〔質問・意見等〕

・本年で完了したのであれば評価「IV」としなくてもよいか。年度計画において「更に進める」とあるがまだ未整備の部分があるのか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 教育の質を向上させるため、教職員の資質向上を図るとともに、教育の方法や内容等について不断の見直しを行う。	(ウ) 学生アンケートや評価機関の評価結果を活用した授業内容の改善を進める。	(カ) 金沢市の評価委員会の事業評価を踏まえ、授業改善を図る。	○評価委員より提案のあった金沢21世紀美術館の学芸員の授業登用について大学院運営委員会で検討し、授業充実のための実施計画を作成した。 	III		42
<p>【追記対応】 ○評価委員より提案のあった金沢21世紀美術館の学芸員の授業登用について大学院運営委員会で検討し、授業充実のための実施計画を作成した。 <u>具体的には、油画専攻において、中田耕市氏、鷺田めるろ氏を招き、学芸員としての専門的立場から研究制作や作品展示計画に対する指導を、また、工芸科において、中田耕市氏、内呂博之氏を招き、現代における美術及び工芸の状況について講義を受ける予定である。</u></p>						

〔質問・意見等〕

・「金沢21世紀美術館学芸員の授業登用」の内容について説明を付記して欲しい。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようにするため、生活面での支援体制を充実する。	(7) 学生相談室の機能の向上やメンタルヘルス指導を充実する。	(7) 大学生生活全般に関する相談指導に学生相談室で積極的に応じる。	<p>○学生相談室に教員5名を配置して、大学生生活全般に関する相談指導に積極的に応じた。とりわけ発達障害学生（<u>診断の有無を問わず</u>）の対応について理解を求め、関係者へのコンサルテーションを行った。また、新任教員との個別面談を行い、学生相談室と連携した学生支援について紹介した。</p> <p style="text-align: center;"></p>	III		資料23 資料24
		<p>【修正対応】</p> <p>○学生相談室に教員5名を配置して、大学生生活全般に関する相談指導に積極的に応じた。</p> <p>○学生相談室に心理士を配置して、発達障害学生（<u>診断の有無を問わず</u>）の対応について、当該学生の指導教員、保護者等に専門的見地から助言し、理解を求めた。それにより、学生が安心して学業に取り組める環境整備に努めた。また、新任教員との個別面談を行い、学生相談室と連携した学生支援について紹介した。</p>				


49

〔質問・意見等〕

・関係者へのコンサルテーションを行ったとあるが具体的にはどのようなことを行ったのか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ウ 学生が適切な進路 選択を行うことが できるようにする ため、就職等の支援 体制を充実する。	学生の進路や就職活動等に対 して専門的な助言指導を行う ため、情報のデータベース化 やキャリアアドバイザーの配 置等を検討し、具現化を図 る。	(イ) 卒業・修了後、研究者や作 家として自立をめざす学生を対 象に指導等を実施し、その活躍 を支援する。	○前年度同様に大学院研究科委員会が 中心となり、著名なギャラリストや美 術館関係者を招聘し、作家や研究者と して自立するための具体的な方策の助 言をしてもらうことで学生の活動を支 援した。 ○「金沢学生のまち市民交流館」に本 学学生の美術作品を展示することと し、卒業・修了制作の中から8点を選定 した。 	IV		資料30 53
<p>【修正対応】</p> <p>○大学院運営委員会が中心となり、作家育成に実績のあるベイス ギャラリーの大西利勝氏と第56回ベネチアビエンナーレコミッ ショナーを務めた神奈川芸術文化財団学芸員の中野仁詞氏を招聘 し、研究者や作家として自立をめざす学生を対象に指導等を実施 し、その活躍を支援した。</p> <p>○今年度の新たな事業として、金沢市が卒業生・修了生の作品8 点を買上げ、市の施設である「金沢学生のまち市民交流館」に 常設展示し、作家として自立を目指す学生の活動を支援した。</p>						

〔質問・意見等〕

・「IV」評定で構わないが、もう少しインパクトのある表記をするべきではないか。

□ 項目別実施状況


大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ア 芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、新たな芸術の創造に資する高度な調査研究や地域の特色ある課題に積極的に取り組む。	(7) 金沢の伝統工芸の保存・継承・発展に資するため、工芸研究の強化などの地域研究課題に取り組む。	(7) 金沢市制120周年事業のひとつである「平成の百工比照」収集作成事業に取り組む。27年度は6年目として、陶磁(2年目)、金属工芸(3年目)、その他未整備の工芸を中心として収集・整理を進める。	<p>○陶磁分野では、有田、伊万里、薩摩、砥部、備前、清水焼、京焼、九谷、珠洲、益子など全国30カ所の産地で製品サンプルの収集を行った。</p> <p>○金工分野でアルミニウム着色見本、染織分野で出雲筒染め、山形県遊佐刺し子の資料を収集した。</p> <p style="text-align: center;"></p>	III		資料31
<p>【修正対応】</p> <p>○陶磁分野では、有田、伊万里、薩摩、砥部、備前、清水焼、京焼、九谷、珠洲、益子など全国30カ所の産地の製品サンプルの収集・整理を行った。</p> <p>○金工分野でアルミニウム着色見本、染織分野で出雲筒染め、山形県遊佐刺し子の資料の収集・整理を行った。</p>					54	

〔質問・意見等〕

・「年度計画」に記載の「整理」の文言を、「業務実績」中にも加えたほうが良い。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料 番号
ア 芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、新たな芸術の創造に資する高度な調査研究や地域の特色ある課題に積極的に取り組む。	(オ) 文部科学省科学研究費補助金において、段階的に申請件数の増加を図り、計画期間最終年度には10件の申請を目指し、これを通じて教員個人の研究活動を活性化させる。	(ク) 文部科学省科学研究費補助金の10件以上の申請をめざし、学内研究の活性化を図る。	<p>○教育研究センターの主催により、6月に科研費申請支援活動の報告会を開催し、28年度の公募への働きかけを行った。10月には申請者を対象に科研費採択実績を有する学内教員と外部講師による応募書類の添削会を開催し、教員6名が参加した。</p> <p>○28年度の文部科学省科研費補助金の公募に、7件の申請を行った。また、三谷研究開発支援財団の公募に、2件の申請を行った。</p> 	Ⅲ		資料45
		<p>【修正対応】</p> <p>○教育研究センターの主催により、6月に科研費申請支援活動の報告会を開催し、28年度の公募への働きかけを行った。10月には申請者を対象に科研費採択実績を有する学内教員と外部講師による応募書類の添削会を開催し、教員6名が参加した。</p> <p>○27年度は、文部科学省科研費補助金の前年度からの継続件数が6件、新規採択件数が3件あったほか、さらに28年度の公募に7件の申請を行い、また、科学研究費助成事業の中の「研究成果公開促進費」のうちの「学術図書」に2件の申請を行った。これらの取組みにより、学内研究の活性化を十分に図ることができた。</p>				

61

〔質問・意見等〕

- ・「年度計画」では科研費10件以上とある。一方、「業務実績」では、それが7件にとどまっている。
- ・「Ⅲ」評定で良いのか。
- ・最終年度だが申請件数が目標に達成していない。従って改善策を提示した方がよいのではないか。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (2) 研究実施体制等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ア 特色ある研究活動を積極的かつ効果的に推進するため、研究実施体制や研究環境を整える。	(7) 教員が研究に取り組むための柔軟な研究環境を整える。 【前期：現状分析、 中期：改善】	(7) 研究環境の整備については引き続き改善策を策定する。	○各教員が教育、研究、社会活動、大学運営の具体的な活動項目の中から目標を設定し、教員自身による一次評価と学長による二次評価を行う教員評価制度を実施した。	Ⅲ		資料36
						
			<p>【追記対応】</p> <p>○各教員が教育、研究、社会活動、大学運営の具体的な活動項目の中から目標を設定し、教員自身による一次評価と学長による二次評価を行う教員評価制度を実施した。</p> <p>教員評価を行うなかで、各教員の特色ある研究活動を、より幅広く個別的に把握することが可能となり、多様な研究活動を推進するための研究環境の改善に活かすことができた。具体的には、サバティカル研修制度の導入を検討した。</p>			


65

〔質問・意見等〕

・教員評価が研究環境の整備となぜ結びつくのかの説明が不足しているのではないか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。	イ 企業等からの受託研究や共同研究などにおいて、教育と研究の観点から大学が取り組む意義のある研究を積極的に実施する。	イ 企業等からの受託研究や共同研究などにおいて、教育と研究の観点から大学が取り組む意義のある研究を積極的に実施し、学生のスキルアップに活用する。	<p>○企業、公共団体等からの依頼により、連携した事業は産学連携事業として15件、地域連携事業として17件となった。教育プログラムとして実践し、実社会の課題を通して経験を重ねることができた。その成果の一部を大学説明会・オープンキャンパスで公開し、研究に取り組んだ学生も参加した。</p> 	III		資料8
<p>【修正対応】 ○企業、公共団体等からの依頼により、連携した事業は産学連携事業として15件、地域連携事業として17件となり、延べ364名の学生が参加した。教育プログラムとして実践し、実社会の課題を通して経験を重ねることができた。その成果の一部を大学説明会・オープンキャンパスで公開し、研究に取り組んだ学生も参加した。</p>						


74

〔質問・意見等〕

・できれば学生参加人数を「業務実績」の中に記載した方が良い。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (2) 国際化に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育 研究活動を推進する ため、学生や教員の国際 交流の機会を拡大す る。	ア 教育研究における国際交流 を推進するため、学生や教員 の海外交流の機会を拡大する とともに、交流内容の充実を 図る。	(イ) 清華大学（中国）へ教員と 学生を派遣する。	○交流協定に基づき、 <u>学生2名</u> を派遣し た。  【修正対応】 ○交流協定に基づき、 <u>教員1名と学生2名</u> を派遣した。	III		84

〔質問・意見等〕

・「業務実績」に学生派遣の記載はあるが、教員派遣はなかったのか。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (1) 国際化に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(ウ) ゲント王立アカデミー(ベルギー)と学生の派遣と受入を実施する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【説明】 ・国際情勢の悪化に伴い、平成27年11月14日付「フランスへの渡航時の安全確保に関する注意喚起について(依頼)」、平成27年11月20日付「パリにおいて発生したテロ事件について(注意喚起)」の各通知が文部科学省等よりあったため、これらを受けて急遽派遣を中止したものである。 </div>	○交流協定に基づき、10月2日～12月27日まで学生1名を受け入れた。 ○交流協定に基づき、学生2名を派遣する予定であったが、国際情勢に配慮して延期することとした。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div>	Ⅲ		85

[質問・意見等](項目85・86・87・88について)

- ・「年度計画」が達成できなかったことについて、「国際情勢」を理由に「Ⅲ」評定とすることは可なのか。
 (ただし、大学が取った措置は必要かつ適切であり、プラス評価せねばならない。)

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (2) 国際化に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(I) ナンシー国立美術大学(フランス)から学生を受け入れるとともに本学から学生を派遣する。	<p>○交流協定に基づき、4月15日～6月14日に学生1名を受け入れ、デザイン専攻の学生と交流し、学内で自身の研究を発表した。</p> <p>○交流協定に基づき、学生1名を派遣する予定であったが、国際情勢に配慮して延期することとした。</p> <p style="text-align: center;"></p>	Ⅲ		86
		<p>【説明】</p> <p>・国際情勢の悪化に伴い、平成27年11月14日付「フランスへの渡航時の安全確保に関する注意喚起について（依頼）」、平成27年11月20日付「パリにおいて発生したテロ事件について（注意喚起）」の各通知が文部科学省等よりあったため、これらを受けて急遽派遣を中止したものである。</p>				

[質問・意見等](項目85・86・87・88について)

- ・「年度計画」が達成できなかったことについて、「国際情勢」を理由に「Ⅲ」評定とすることは可なのか。
 (ただし、大学が取った措置は必要かつ適切であり、プラス評価せねばならない。)

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (2) 国際化に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育 研究活動を推進するた め、学生や教員の国際 交流の機会を拡大す る。	ア 教育研究における国際交流 を推進するため、学生や教員 の海外交流の機会を拡大する とともに、交流内容の充実を 図る。	(オ) ヴェランド芸術学院 (スウェーデン) へ学生を派遣す る。	○交流協定に基づき、学生1名を派遣す る予定であったが、国際情勢に配慮し て延期することとした。 	Ⅲ		87
<p>【説明】 ・国際情勢の悪化に伴い、平成27年11月14日付「フランスへの渡 航時の安全確保に関する注意喚起について（依頼）」、平成27年 11月20日付「パリにおいて発生したテロ事件について（注意喚 起）」の各通知が文部科学省等よりあったため、これらを受けて 急遽派遣を中止したものである。</p>						

[質問・意見等](項目85・86・87・88について)

- ・「年度計画」が達成できなかったことについて、「国際情勢」を理由に「Ⅲ」評定とすることは可なのか。
 (ただし、大学が取った措置は必要かつ適切であり、プラス評価せねばならない。)

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (2) 国際化に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。	ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(カ) ナント美術学校（フランス）へ学生を派遣する。	<p>○交流協定に基づき、学生1名を派遣する予定であったが、国際情勢に配慮して延期することとした。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>【説明】 ・国際情勢の悪化に伴い、平成27年11月14日付「フランスへの渡航時の安全確保に関する注意喚起について（依頼）」、平成27年11月20日付「パリにおいて発生したテロ事件について（注意喚起）」の各通知が文部科学省等よりあったため、これらを受けて急遽派遣を中止したものである。</p>	Ⅲ		88

[質問・意見等](項目85・86・87・88について)

- ・「年度計画」が達成できなかったことについて、「国際情勢」を理由に「Ⅲ」評定とすることは可なのか。
 (ただし、大学が取った措置は必要かつ適切であり、プラス評価せねばならない。)

□ 項目別実施状況

業務運営の改善及び効率化に関する目標
 1 組織運営の改善に関する目標
 (2) 教育研究組織の改善に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
特色ある教育研究を推進するとともに、社会の教育研究に対する要請や学生の学習需要の変化等に対応するため、教育研究組織について不断の見直しを行う。	ア 学問状況の変化や社会的要請に対応し、効果的な教育・研究を推進するため、学部、研究科の再編など、教育研究組織の在り方を不断に検証し、必要な改善を図る。	ア 効果的な教育・研究を推進するため、学部、研究科の教育研究組織の在り方を検証し、必要な改善案を策定する。	○自己点検・評価実施運営会議及び各科会議、専攻会議において、社会や時代の状況に対応する教育内容、教育体制のあり方について検討した。また、成美会（保護者会）、同窓会、経営審議会委員からの意見を聴く機会を持ったほか、卒業生アンケートを実施するなどして、外部からの視点を参考とした検討を行った。 	III		
<p>【追記対応】 ○自己点検・評価実施運営会議、美術・デザイン・工芸の各科・専攻会議において、社会や時代の状況に対応する教育内容や教育体制の在り方について検討した。また、成美会（保護者会）、同窓会、経営審議会からの意見を聴く機会を持ったほか、卒業生アンケートを実施するなどして、外部からの視点を参考とした検討を引き続き行った。 <u>こうした継続的な検討を受けて、第2期中期計画を策定し、その中で学部教育の充実、大学院教育の改革など教育研究組織の改善と今後の在り方を示した。</u></p>						

92


〔質問・意見等〕

・「年度計画」にいう「改善策」の策定はできたのか。

□ 項目別実施状況

財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
財政基盤の強化を図るため、競争的資金の獲得や寄附金その他の外部資金の導入に積極的に取り組む。	(2) 文部科学省科学研究費補助金等の競争的資金の獲得に取り組む。	(2) 28年度の文部科学省科学研究費補助金等の公募に、10件以上の申請を目指す。	<p>○28年度の文部科学省科研費補助金の公募に、7件の申請を行った。また、三谷研究開発支援財団の公募に、4件の申請を行った。</p> <p style="text-align: center;"></p>	III		資料45 103
		<p>【修正対応】 <u>○28年度の文部科学省科研費補助金の公募に7件、科学研究費助成事業の中の「研究成果公開促進費」のうちの「学術図書」に2件の申請を行った。また、三谷研究開発支援財団の公募に4件の申請を行った。合計で13件の申請を行うことができた。</u></p>				


〔質問・意見等〕

- ・「三谷研究開発支援財団」への申請件数は4件で間違いないか。
(項目番号61との整合性)

□ 項目別実施状況

財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
財政基盤の強化を図るため、競争的資金の獲得や寄附金その他の外部資金の導入に積極的に取り組む。	(3) 大学の特性を生かした独自の自己収入増加策を検討し、民間の企業や芸術団体などからの資金の導入に取り組む。	(3) 教育研究活動に支障が生じないよう配慮したうえで、本学の知的資産を活かした産学連携研究に取り組み、自己収入の増加を図る。また、28年度の知財センター(仮称)設立に向けて、27年度中に知的財産の扱いに関する方針を検討する。	<p>○企業や公共団体等からの依頼について、社会連携運営会議において内容と教育的な効果を確認し、産学連携事業を15件、地域連携事業を17件実施した。</p> <p>○大学の資産や新たに発生する知的財産を取り扱うための組織のあり方や管理方法などを弁理士を交えて検討した結果、新たに知財管理部門を設置し、<u>社会連携運営会議や地域連携センター及び産学連携センターの名称を変更することとした。</u></p> <p style="text-align: center;"></p>	IV		資料 8 資料46


104

〔質問・意見等〕

- ・「…(前略)…新たに知財管理部門を設置し、社会連携運営会議や地域連携センター及び産学連携センターの名称を変更することとした。」とあるが年度計画と対比してわかりにくいので表現方法を変えた方が良いのではないか。

□ 項目別実施状況

その他業務運営に関する重要目標 2 大学支援組織等との連携強化に関する目標


中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
学外からの支援体制を充実するため、同窓会、保護者組織、芸術関連組織等との連携の強化を図る。	(2) 事務職員の能力の向上を図るため、芸術関連組織や民間企業等との交流研修を実施する。 【後期】	(4) 事務職員の能力の向上を図るため、民間企業等との交流研修や民間企業等への講師の派遣を実施する。	<p>○北國銀行が主催した「大学中堅職員向け研修会」(10月14日～15日)に職員を参加させ、北國銀行の職員や他大学の参加者との意見交換や事例研究による交流を行った。</p> <p>○本学の学芸員を他の芸術系大学に非常勤講師として派遣し、「博物館展示論」の授業を担当させた。学芸員の専門知識、企画能力の向上を図るとともに、他の芸術系大学の教員との交流を行った。</p> <p style="text-align: center;"></p>	Ⅲ		資料44
<p>【説明】</p> <p>・25年度に金沢学院大学で学芸員養成課程を担当していた教員から、現場での実践経験がなければ授業を行うことが難しい「博物館展示論」を本学学芸員に担当してほしいとの依頼があった。学内で協議した結果、26年度後期から毎週1コマの非常勤講師として派遣することとした。資料44にシラバスを追加する。</p>					126	

〔質問・意見等〕

・学芸員の知識・能力を陶冶するために、当学の発意で、芸術系大学に講師派遣した、という理解でよいのか。

□ 項目別実施状況

その他業務運営に関する重要目標 4 人権擁護及び法令遵守に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
社会への責任を果たし、適正な法人運営を推進するため、人権の尊重と法令遵守を徹底する。	(1) 教職員の倫理意識の啓発や人権侵害等の防止を図るための研修を実施する。	(2) 研究倫理の確立を目指し、研究倫理規程を策定するとともに、28年度における研究倫理委員会の設置について検討を行う。	○研究倫理規程の策定に向けた情報収集を行い、規程の素案を作成するとともに、研究倫理の確立に向けた組織体制について検討した。 	Ⅲ		資料56 132
<p>【説明】 ・27年度に検討し、平成28年5月10日に制定した。資料56を添付する。</p>						

〔質問・意見等〕

・研究倫理規定の策定は平成28年度となるのか。素案の資料添付をお願いしたい。